＜全体分析＞

試験時間　80　分

解答形式
長文総合問題３題，２つの設問からなる自由英作文１題

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）
長文総合問題３題と自由英作文１題，長文総合問題は大問のⅠとⅡが論説文で，大問Ⅲが小説文という出題形式は例年通りである。総ワード数は，大問Ⅲの小説文は昨年よりも 100 語程度増えたが，大問のⅠとⅡがやや減少したので，全体的にはここ数年とほぼ同じである。

出題の特徴や昨年との変更点
昨年と比べると大きな変化はない。

その他トピックス
特になし

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	読解総合 (599words)	「JAXA の月面探査技術」	問１の power issue は「電力の問題」の意味。 問５の内容合致問題は英文を丁寧に読むまでもなく，常識的な判断で選択肢を絞り込むことも大切。 出典　Mariel Borowitz: *Japan Lands on Moon, Paving Way for Future Missions "Japan is now the 5th country to land on the Moon － the technology used will lend itself to future lunar missions"　(January 2024)*	標準
Ⅱ	読解総合 (570words)	「老化に関する意識変化」	問１の「ひとつの長寿革命」は第１パラグラフの後半の内容をまとめればよいだろう。 問３はある意味ではきわめて難問である。This shift の内容は直前に書かれている change ではなく，「ただ寿命を延ばすこと」に重点が置かれた one longevity revolution から「老化の進行を遅らせて健康に長生きすること」を追求する a second revolution への「意識変化」を指すと考えるべきであろう。そうした内容を理解した上で，どの程度まで踏み込んだ説明をするべきなのかの判断は難しい。おそらく多様な解答が可能であり，そして正解と不正解のボーダーラインは引きにくいと思われる。採点は極めて困難だったのではないだろうか。 出典　Andrew Scott: *A Longevity Revolution (New Scientist, April 2024)*	難
Ⅲ	読解総合 (674words)	「ある家族のクリスマス」	問３は難問。「クリスマスツリーのてっぺんに銀の天使の飾りをつけようと頑張っていること」の理由として，「自分が頑固だからではなく，かんばり屋だからだ」と弁明しているのだが，その発言の心理的な背景にあるのは，「自分たちの家族が昔からやってきた飾り方にこだわりたい」という積極的な理由があると考えられる。解答例はあえて２例挙げた。心理的背景まで捉えた解答の方が望ましいと	やや難

© 河合塾　2025 年

			思われるが，＜別解＞のような簡潔な解答でも許容されたと思われる。完成度の高い答案を書こうとして英文を深読みしてしまい，時間を浪費しないように気をつけたい。 出典　Sophie Kinsella: *The Party Crasher*	
Ⅳ	英作文	「ニュースを知る手段としてのソーシャルメディア」	(1)は５つ挙げられている各ソーシャルメディアの中から２つを選んで，2020 年から 2023 年のニュースを知る手段としての利用率の増減の説明が求められている。対比が明確なメディアを選んでまとめることが望ましい。 (2)は「ニュースを知る手段としてソーシャルメディアを使うことの是非」を 60 語程度の英語で書く。第１文で自分がどちらの立場に立つのかをはっきりと示した上で，その論拠をその後の文で展開していくことになるだろう。まとまりのある英文を書くためには，はじめに全体の構想を立てた上で書き出すことが大切である。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
　難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

問題形式は例年通りで，600 語前後の英語長文が３題，そして２問構成の自由英作文が１題という形式の出題。下線部和訳，内容説明，空所補充，自由英作文など出題形式はきわめて多彩であり，こうした形式に対処する能力を養うためには，一歩一歩地道な学習を続ける以外に近道はない。文法や構文を習得する，単語や熟語を覚える，問題演習を繰り返す，復習を欠かさないなど，「オーソドックスな学習」を継続することが神大合格につながるはずである。

長文総合問題では，パラグラフのメッセージを大きくつかみながら，長文をスピーディーに読み解いていく能力と，一文一文丁寧に構文をたどりながら精読していく能力とが共に必要である。単語や文法・構文をこつこつと学んでいく地道な努力と，長文総合問題を限られた時間内で解いていく実践的な練習とを併行して進めていこう。下線部和訳や内容説明などの記述力を要求される設問の比重が大きく，ここでの出来が合否に大きく影響するはずである。日頃の学習においても「頭の中で解答する」だけではなく，きちんとノートに書くことを心がけよう。下線部和訳は，かつてのような複雑な構文や難解な単語を含む英文の訳出ではなく，前後の文脈と論理の流れを踏まえた上での訳出が必要な英文の訳出へと傾向は変わりつつあることにも留意しておきたい。

また，神戸大学の出題はここ数年，現代英語化の傾向が著しい。今年も大問Ⅰと大問Ⅱは 2024 年に公にされた記事からの出題となっている。普段の学習においても古典的な素材ばかりではなく，新しい素材に積極的に取り組んで欲しい。

さらに，ここ数年の神戸大学の出題傾向の変化についても意識しておく必要がある。記述式の内容説明問題や選択肢から選ぶ内容合致問題は，これまでの大学入試問題の典型的な形とは変わりつつあるようだ。内容合致問題は英文を読むまでもなく常識的判断で排除できてしまう設問も多い。また，内容説明の記述問題は，英文の中から該当箇所を見つけ出しそれを記述するというよりも，英文全体のメッセージを把握した上で，ある程度は自分の言葉でざっくりとまとめることが求められているようである。つまりこれまで以上に英文の全体を把握する能力が問われているのだ。

英作文は自由英作文の出題が続いている。自由英作文はどのような内容を書くかを考えすぎると，いたずらに時間を取られてしまう恐れがある。神戸大学が求めているのは「シンプルな英語でオーソドックスな議論を英語らしい展開で書くこと」だと思われる。普通の発想の平凡な内容で構わない。「文と文のつながり」，そして「パラグラフのまとまり」を意識して英文を組み立てていこう。言うまでもないことだが，一つのパラグラフで書くべきであり，不必要な改行はやめて欲しい。また，設問の意図を読み違えてしまうと，まったく得点が発生しないという事態になりかねないので慎重に設問を読み，見当違いの解答にならないよう注意して欲しい。配点は全体の 125 点のうち 25 点で相対的にはそれほど高くはない。ここでいたずらに時間を浪費してはならない。時間配分を考慮して戦略的な解答作成を常日頃から心がけたい。

© 河合塾　2025 年